

国語「読むこと」の指導充実・改善へ

「よい学習」の実現に向け、指導の充実・改善に取り組んでいる

「価値ある対話」キーワードに

進んで伝え合う児童育てる

東京都町田市立町田第六小学校(薄井智美校長、児童333人)は、国語科の「読むこと」に関する指導の充実・改善に取り組んでいる。研究テーマは「まずんで伝え合う児童の育成」。教師一人一人が「自分ごと」として「授業を委ねよう」と、自らの実践に取り組んでいるという。キーワードは「価値ある対話」と「よい学習」。21日に研究発表会を行い、これまでの成果などを発信する。

東京・町田市立町田第六小学校

「よい学習」とは 各教師が定め追究



本年度で国語科の研究に取り組んで5年目を迎えた同校。自分の考えを持って伝えるなど、話し合いのときに「問い」と向き合う子どもの姿勢に課題が見られた。こうした実態を踏まえ、昨年度から「読むこと」に関する指導の充実・改善に力を入れている。そうすることで、以前から取り組む「書くこと」の力の向上にもつながると考えたためだ。

研究テーマとの関連性を踏まえ、市教委が示している授業改革の視座にあった「価値ある対話の共有」に着目。この対話の在り方を

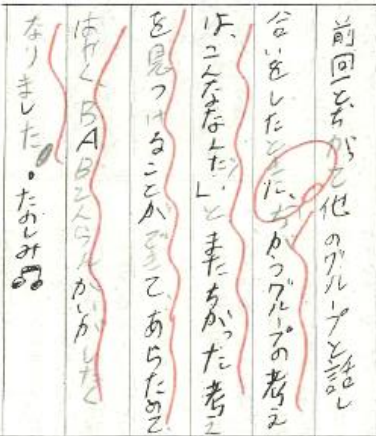
た自然な対話と捉えた。とは何かを決め、その実践に向けて追究していると。現に向けて追究していると。最初は「よい授業」が自発的に話し合う活動のことが。教師は考えさせたいポイントを定め、それから話し合いのグループ(対象、人数・習熟度、同席・異席)を設定している。もう一つの特色は、教師一人一人が「よい学習」を活動のねらいや目的に沿って

物語の疑問点・解釈など カードに記し、グループで共有

同校のホームページに「これまでに行った授業を『よい学習』とした。指導案が掲載されている。その一つが、6年生の『やまなし』(光村図書)の実践だ。この取り組みでは、課題解決の中で表れる話し合いを「価値ある対話」と設定。子どもが学習に向き合い、「知りたい」「や

理由や根拠となる表現を書き出し、想像した物語の様子を絵や図で表現できるようになっている。まずは「なぜカード」に書き込み、それを基に「リオ(3人)グループ」で

・武蔵野教育研究所代表が「読むこと」の授業づくりを深めたい」と話す。この他、講師の細川大輔(72)も参加している。町田第六小学校042・722・3659



子どもの気付きや考えたことの「振り返り」も大切にしている

21日に研究発表会
同校は21日、研究発表会を実施する。全13学級が授業を公開し、全体会後は4つの分科会(低・中・高学年、特別支援学級)に分かれて協議を行う。公開授業に関して、「二つのグループに視点を定め、どのような対話をしているのかを詳しく見よう」と語る池野野研究主任。授業後の協議会では、「他のグループを参観していた参加者とも意見を交わし、私たちが共に学んでいきたい」と話す。